

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	複素数学		
英文授業科目名	Complex Analysis		
開講年度	2005年度	開講年次	2年次
開講学期	3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報工学科		
担当教官名	今村 俊幸		
居室	西4-507		

公開E-Mail	授業関連Webページ
imamura@im.uec.ac.jp	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>本講義は他学科の関数論と対応しています。工学の諸現象を数学を用いて解析する場合方程式を立ててそれを解くという手続きを踏みます。この解を表現する手段に関数論が不可欠です。この講義では関数論の入門部分を学びます。</p> <p>実用上もっとも便利な、数の体系は、複素数です。微分積分学と線形代数学の大抵の事項は、複素数を用いることで、明解になります。現代のコンピュータでは、複素数を用いた数値計算が自由に出来ます。数値計算は、情報工学の原点です。情報工学科に学ぶ皆さんが複素数を自在に使いこなして数値計算を始めとする情報工学の諸課題に取り組むことが出来るようにとの願いが、複素数学の講義名称にこめられています。</p> <p>(複素)関数論は複素数を変数とし複素数を値とする微分可能な関数の理論です。この理論は、理工学において数学を応用する際に、もっとも基礎的なもののひとつです。複素数を自在に使いこなして、この理論を使える力を身につけることがこの科目の達成目標です。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>微分積分学第一、微分積分学第二</p>

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p>

<p>【教科書等】</p> <p>教科書として林一道著、「初等関数論」(裳華房)を使います。</p>

【授業内容とその進め方】

講義は下記項目から取捨選択して実施します。

1. 複素数の基本的な性質（極形式、複素平面、実部と虚部）、
複素数列の収束、極限
2. 複素変数の初等関数
（多項式関数、有理関数、三角関数、指数関数、対数関数）
3. 複素関数の微分可能性と正則関数、コーシー・リーマンの関係式
4. 調和関数、ラプラシアン、グリーンの定理
5. 線積分、複素積分
6. コーシーの積分定理、積分公式とテーラー展開、一致の定理
7. 孤立特異点の分類、特異点でのローラン展開
8. 留数定理、留数の計算
9. 積分の計算、実積分の計算への応用
10. 一次関数、等角写像、流れ関数、ポテンシャル関数、流体数学展望
11. 数値計算とのかかわり
（正則関数の零点を求めるニュートン法、正則関数の視覚化、数値積分公式）

講義内容は、受講生の理解に合わせて、少しずつ毎年変化しています。本年度は情報工学演習と連携して、講義の中でも演習の回数を増やしていく予定です。

4/11 講義説明、複素数復習(極形式、複素平面、累乗根、ド・モアブルの公式)

4/18 複素数の極限、級数、連続関数、形式的微分

4/25 複素関数(1)、写像のとらえ方、その他（等角写像など）

5/9 演習第一回

5/16 複素関数(2)、初等関数{多項式、有理式、指数関数、三角関数、対数関数、双曲線関数、累乗}

5/23 複素関数の極限、連続関数、微分係数

5/30 コーシー・リーマンの関係式、複素関数の正則性について

6/13 複素積分の準備、線積分、弧長に関する積分

6/20 演習第2回

6/27 コーシーの積分定理、コーシーの積分公式など

7/4 級数展開(テイラー展開、ローラン展開)、留数定理

7/11 留数の求め方、実定積分への応用(1)

(以下の項目は情報工学演習と連携させて行います)

実定積分への応用(2)、練習問題(1)、正則関数についての幾つかの性質補足

(調整期間に実施予定)

練習問題解答、その他補足（極座標系でのコーシーリーマンの関係式など）

を予定している。情報工学演習との連携は本年度からなので内容に若干の変更があると思います。

本年度は演習問題の回を設定し、学生諸君の理解度に応じて進度を調整していきます。また、適時、質疑応答の時間を設けていきます。なお、本講義は月曜開講となるため振り替え連休の影響で他曜日と比較して開校日が少ない傾向にあります。そのため、講義の進度に応じて期末試験前の調整期間中に補講を実施する予定です。

電気通信大学 平成17年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期末試験で、基本問題を10題程度出題します。そのうち一定以上の正答、加えて演習問題解答状況と出席率を考慮して評点を決定します。
H16年度における成績評価は次のとおり。期末試験、演習問題解答状況、出席状況の素点に重み7:2:3を付けて足し合わせて、総点を出しました。
この総点をもとにして、以下、規定にしたがって、90以上をS, 90未満80以上をA, 80未満70以上をB, 70未満60以上をC、60未満をDとした。なお、試験欠席者はDとなるので注意すべし。

【オフィスアワー：授業相談】

毎授業時間の中間点に質疑応答の時間を取っています。その時間ではすまない事柄のある人は、E-mailにてアポイントメントをとり個別に面談を行うことにしましょう。

【学生へのメッセージ】

大学の講義は、一時間の授業に対して、予習と復習を各一時間ずつ学生が行うことを前提としています。この講義は、そのような受講の仕方がふさわしい講義の一つです。内容豊富なので、講義では、重要事項を選んで板書します。よく予習復習をして、複素数に慣れ親しんで、複素数を自由に使いこなせるようになっていただきたいと思います。

【その他】

本講義では同一開講の複素数学(J1)となるべく同じ内容を講義するように努めていますが、学生の理解度や講義の進度によって若干構成が変わる可能性があります。不足する部分や実践的な訓練は情報工学演習にて補うこととします。